

開学十周年記念論文集発刊に際して

学 長 長戸路 政 司
経済学会長

十年一昔という言葉があるが、私には、本学に関する限り、それがつい昨日のことのようには感じられない。それはおそらく生みの苦しみがまだまだ続いており、本学を押しもおされぬ立派なものに育て上げるために、これからなすべきことが、まだまだ山程も前途に立ちだかっているからであると思う。

それにしても、開学以来、ともかく十年の月日を経過して、ここに開学十周年記念論文集を刊行し得る段取りになったことは、前途多端とはいえまことによろこばしいこととしなければならない。

思えば、開学当初僅か数十名の入学者を迎え入れたに過ぎなかった本学が、その後、年を追うて順調に発展し、本年度に到って400名に達する新入学生を収容するまでになったことは、開学以来いろいろとはかりしれぬ程の御尽力を贈わった諸先生方は申すまでもなく、その後追々と学生数増加にともない、本学の教育事業にご参加下さって今日の段階にまで本学を推進させて下さった諸先生方のおかげであるとしなければならない。ここにこれらの諸先生方に心から感謝の意を表したいと思う。

そもそも、本学は「敬天愛人」を建学の理想とするものであり、真の教育は、この精神を実現するに足る人士を育成すること以外にあり得ないことを固く信じているものである。

「天地宇宙を支配する真理を謙虚に追求し、その真理をおのが心として、万人ともどもに相和のうちに生きる道を見出だすべし」というこの建学の精神とは全く相反して、今日如何に人びとは、真の学問の道を踏みはずし、それぞれの単なる管見を以て絶対の真理であるかの如き傲慢不遜な態度をとりあい、相互に否定し合い、相争い合って思想的無政府状態を現出し、はては、それを直ちに実践に結びつけ、かくして相互に火花を散らして世を陰悪にしていることであろうか。

わたくしは、まさにこのような時代においてこそ、この建学の精神の真理性を発揮させなければならぬことの急務であることを痛感するものである。

道は遠い。だが、この道に行くより他に道はない。開学以来ここに十年、今後如何にしてこの精神を研究の實際に、学生の教育に、生かして行くか。その実現の方法の明確化、そしてその具現、それが今後私どもにとって問題なのである。

創立十周年記念論集発刊を契機として本学がいよいよこの方向に向って更に第二歩へと進み入る気運が明確に感ぜられ、私はこの上ないよろこびとするものである。

最後に、本誌のために貴重な研究成果をご投稿下さった諸先生方に対し、更にはその編集に非常なお骨折りをたまわった諸先生方に対し心から感謝の意を表する次第である。